

令和六年七月

晋賢光明

華嚴宗 晋賢光明寺

今月の法話

## 「信仰のあり方」「先祖への祈りと施餓鬼供養」

### 一、信仰のあり方

先日、友人との会話の中で「信仰」の是非が話題に上がりました。彼は宗教を信じることを「逃げである」と断じましたが、果たしてこの道は「逃げ」の道なのでしょうか。そうではありません。信仰こそ前向きな道なのです。

彼はなぜこのような問いかけをしたのでしょうか。そこには私たちの世代が物心ついたときから、世間に蔓延していた宗教に対して疑念に原因があります。一九九五年のオウム真理教事件に端を発し、新興宗教への忌避感や宗教そのものへのアレルギーがはじめから存在した世界で私達は育ったのです。その後遺症は現在まで続き、未だに宗教と距離を取ろうとする人はすくなくありません。しかし、それは宗教への教育が不十分なまま育つことであり、宗教への耐性を無くした若者は怪しい新興宗教にとって赤子のようなもの。コロリと騙されてしまいます。また、一部ではホストクラブなどの一種のカルト的な手法に絡め取られ、苦しみ沼へと沈む結果を生みました。信仰を持つことは、この複雑怪奇なる現代社会においてその必要性がより深まっていると感じます。

では、「信仰」とは何でしょうか。当山の法話では度々「信仰心」という言葉を用いてお話してまいりました。この言葉は仏典にも古くから存在し、華嚴経などにも見られます。(一切仙人殊勝行 人天等類同信仰 「一切の仙人の殊勝の行を人天等の類は同じく信仰す」大方廣佛華嚴經卷第十四淨行品第十一) 經典では信仰(しんごう)と読み、そのまま「信じ仰ぐ」という意味です。「仰ぐ」という言葉は「上を見上げる」といった意味で、自分より高い場所を見上げることを示します。「仰げば尊し」などが良い例ですね。

つまり、信仰とは自身より上におられる方を信じ伏して敬うことをいいます。仏教用語では「帰依」であったり、皆さんのよく言う言葉では「南無」に近いと思われれます。一途に心を定めて敬い礼を尽くすことです。ただ、現代用語での「信仰」はキリスト教的なニュアンスが多く含まれているように感じます。キリスト教における神はまさに「天にいます我らの父」「いと高きもの」と表現され、「信仰」という語が聖書の翻訳に用いられました。しかし、仏教における信仰は、「仰」ではなく「信」にその本質があります。なぜならば仏は天にも、高いところにもいないからです。では仏はどこにいらっしやるのでしょうか。仏はこの宇宙のどこにも存在し、皆様の心の中にも確かにいらっしやるのです。故に観音様を信じ仰ぐということは、翻って宇宙そのもの、私達自身も信じることにつながるのです。

そして、この「信」は私達にとって大切な宝物であり、この現実という海原を渡るための大切な船なのです。また、「佛法の大海には信をもつことので入ることができる」(大智度論)という言葉もあります。華嚴経においてまずは「信心」を確たるものにするからこそが仏道修行の最初の階段なのだと言います。「信心清淨なれば華開けて則ち佛を見る」(十住毘婆沙論)。そして、清らかで心の底からの信心を起したとき、仏は私達の眼前にそのお姿を表してください。

しかし、凡夫たる私達の持つ「信心」というのは、全く持って不安定なもので、いつもそっぽを向いたりフラフラしてしまいます。そんな私達であっても、観音様と出会い、導かれたからこそ、今ここで信を持つことができているのです。私達の信心とは観音様を初めとする仏様の徳によって導かれ、救いという形で支えてくださっているのです。そして、この「信」を深める事によって、正しく仏道を歩むことができます。

では、どう仏道を歩めばよいのかという点と鎌倉時代の華嚴宗の僧侶である明恵上人は、凡夫の行として布施と礼拝を勧めました。曰く「志を持ち、粟柿でもまずは三宝に供えること」。これは小さな子供であっても可能な修行です。また、弥勒菩薩は礼拝行によって果報を得たことから、まずは礼拝行も勧めたのです。そして、修行において大切なことは感謝の心を持つことです。わたしたちは一人では生きていきません。逆を言えば私達は大勢に生かされているのです。これほど心強いことはありません。それにも関わらず現代社会では人と人とのつながりが希薄になったと言われます。しかし、それは本当のつながりを見失っているだけ、私達は深く繋がり合っているのです。仏道への信心を持つと、自然と迷いの霧は晴れ、感謝の心が湧き出てきます。信じて進むことこそが肝心です。すでに皆様はその一歩を踏み出し歩き始めています。この歩みを止めないように共に精進してまいりましょう。

## 二、先祖への祈りと施餓鬼供養

ご先祖や諸霊への供養法として、古くから行われてきた方法は大きく三つあります。「回忌供養」「彼岸会」そして「施餓鬼会(孟蘭盆会)」があります。当山の施餓鬼会では皆様に直接の「ご先祖様」の供養だけでなく、「童男童女」「水子」「ご友人」「恩師」など縁ある方々への供養を強く勧めております。これにはお盆の風習の元になっていられるお経の逸話があります。「孟蘭盆経」と呼ばれるこの経典は、お釈迦様の十大弟子の一人である目連尊者が神通力によって自身の母親が餓鬼道へと堕ちてしまっていたことを知る場面から始まります。子供には優しい母親であったが、他人には厳しくひどい仕打ちをしていたためにその報いを受け餓鬼道へと転生してしまっていたのです。目連尊者は師であるお釈迦様にどうすれば母を救うことができるのかと尋ねます。するとお釈迦様は聖者への布施行を説き、それによって過去七生の父母(七代前までの先祖)とその親族は地獄、餓鬼、畜生の三悪道の苦しみから逃れ、衣食に困ることはないだろう。もし両親が健在の人であれば、両親は未永く幸せに暮らせるだろうと。すなわち、この布施行と回向こそが先祖の救いとなり、自身の功德にもなるのです。また、目連尊者は母を救えることに歓喜して踊り、それが盆踊りの元になったという俗説もあります。ちなみにここで言う「孟蘭盆」とはご飯を盛るお盆のことで、当山の施餓鬼でも大皿にご飯を盛って仏様にお供えしております。餓鬼道というのは生前に嫉妬深かったり、欲深く、物惜しみや貪りの強い人、差別的だったり、自己中心的な人が堕ちる世界です。この世界の住民は物を食べようとしても、それがたちどころに炎と化してしまいうため永遠に飢えの中に置かれる。また、不浄なもののみ口のできる餓鬼もいる。しかし、施餓鬼法によって布施された食べ物には食べられません。また、施餓鬼の功德は非常に高く、無量の福德を得て、一切の霊的存在、夜叉羅刹などの悪鬼神、呪い怨みなどに害されることなく、諸仏や諸天神に守られる。それ故に、施餓鬼会における追善供養は非常に効果的であり、皆様にはこの供養にぜひ参加いただきたいのです。当日の護摩供養では住職が一体ずつ丁寧に読み上げ、お名前の書かれた経木塔婆を焚き上げて祈ります。亡くなられた諸霊は自身で功德を積めないため、私達が代わりに追善の供養を行う必要があるのです。それこそが親孝行、先祖孝行の祈りなのです。私達のご先祖様がいなければ、今生まれていません。そして、すべての縁ある人々によってこの瞬間も生かされているのです。それを今一度強く心に刻み、感謝の祈りを捧げましょう。

## 三、土用の丑の日

立春・立夏・立秋・立冬といった節分の前である十八日間を土用といわれています。土用の期間は土の気が盛んになるため、土いじりや工事などが忌避されますので注意してください。「丑の日」は十二支で、十二日で一週しますから、年によって「土用の丑の日」は二度あり、それぞれ一、二の丑と呼ばれます。今年も二回ある年に当たり、七月二十四日と八月五日となります。夏の土用の丑の日には「う」のつくものを食べると良いとされます。「う」の付く食べ物という梅干しやうどんなどがありますが、体調を崩しやすい期間ですから精のつくものがよろしい。万葉集にも大伴家持が夏瘦せにはうなぎが良いと詠むなど、古代から食養生の食材として知られていたうなぎが好まれたのでしょうか。ただ、皆さんも御存知の通りうなぎの旬は冬場。せっかく食べるのなら旬の食材のほうがよいでしょう。おすすめの旬のネタは穴子や鱧ですね。今年も猛暑が予想されますから、冷房を利用して体調の管理をなさってくださいませ。

※七月十九日〜八月六日迄が土用となります。

合掌

## 南無日光妙法蓮華經

\*七月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺(七月六日〜八月六日) ※一年通してのラッキーカラーは白色です。  
\*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

七月のラッキーカラー 青 白 緑 暗剣殺 南 五黄殺 北

## 【お知らせ】

- ① 八月の勉強会の日程：普賢光明寺(鎌倉) 八月三日(土) 四日(日) 六日(火) 正午より  
横須賀支部： 八月十八日(日) 小田原別院： 八月二十八日(日) いずれも午後二時より。
- ② 孟蘭盆会施餓鬼不動護摩供養を七月二十一日(日)に厳修いたします。年に一度の供養祭です。一人でも多くの仏様を慈悲の心で成仏へお導きください。詳しくは別紙をご覧ください。
- ③ 滝行の日程：《塩川滝》 七月十四日(日) 八月十一日(日) 午前七時集合  
《夕日の滝》 七月二十八日(日) 八月二十五日(日) 午前六時集合  
天候等に変更になる場合もございますので事前にご確認ください。初めての方でも作法をお教えいたしますので、ぜひ行ってみてください。(行着の貸出も行っています) なお、行、見学共に同意書の提出が必要となります。
- ④ 仏像彫刻教室：七月十四日(日) 八月二十五日(日) 正午より ⑤ 絵画教室：八月四日(日) 勉強会終了後
- ⑥ 不空羅索観音大祭：九月十五日(日)